

# ひまわり訪問看護ステーション

症 例 概 要    利用者    : 60代    女性    要介護5

利用期間        : R7年7月後半～訪問看護開始

現在も利用中 (R8年2月よりセラピスト訪問開始)

経        過        : 静岡県在住。夫が定年を迎え故郷の石巻へR7年4月に転居予定だったが、R6年11月友人と会食後転倒。自宅に戻り様子をみていたが、右肘と腰の痛みが強く近医救急外来を受診。左放射線冠～被殻の脳梗塞と右上腕骨骨折、第一腰椎破裂骨折し入院。平行棒で起立訓練を行うところまで回復もR7年1月インフルエンザと細菌性感染でADLが大きく低下。R7年2月下旬に静岡県内の回復期病院へ転院。R7年5月9日より石巻健育会病院転院。

## 内        容

石巻健育会病院訪問リハビリテーションから引き継ぎ、令和8年2月よりひまわりのセラピストによる訪問を開始した。介入当初は腰痛の訴えが強く、日常生活でも夫への依存傾向がみられていた。

関わり始めて間もない令和8年3月、ご利用者には静岡まで車で長距離移動し、お墓参りや諸手続きを行う予定があった。信頼関係が十分に構築されていない時期ではあったが、長時間移動による身体への負担を考慮し、休憩の取り方や車内での姿勢について具体的に助言した。その結果、移動中に腰痛の増悪もなく無事に帰省を果たすことができ、この成功体験はご利用者の大きな自信につながった。

その経験をきっかけに「お風呂で右手も使って自分で体を洗いたい」という思いが芽生えた。機能訓練だけでなく、テーブル拭きや窓拭きなど生活に即した動作練習や、好きな野球の投球動作を取り入れ、楽しみながら主体的に取り組める環境づくりを行った。

現在は夫の介助のもとシャワーチェアを使用して入浴しているが、その先には「家のお風呂は狭いので温泉に行きたい」という夢がある。

温泉に行くことは、単なる外出ではない。自ら立ち、歩き、行きたい場所を選び、自分の身体を自分で洗うこと。それは健育会が大切にする人間の尊厳そのものである。

ご利用者の思いを大切にしながら、夫と浴槽へ入る練習や入浴動作の工夫、安全に温泉へ向かうための歩行練習に取り組んでいる。その支援によって、ご利用者は「できないから頼る」生活から、「やりたいから挑戦する」生活へと変化した。

「温泉に行きたい」という言葉は、ご利用者が再び自分らしい人生の主人公として歩み始めた証である。夢や希望に寄り添い、その人らしく生きる力を支える本事例は、人間の尊厳を体現する取り組みとして、キラキラ介護賞にふさわしい事例である。

理学療法士、作業療法士、看護師